

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第6週 （2月8日～2月14日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は、第3週に流行開始の目安となる1.0を超えて以降増えつづけており、第5週の16.44から第6週では23.92と増加しています。安芸以外で増加し、須崎、高知市では警報値を超え、県全域及び中央西、中央東、幡多では注意報値を超えています。迅速検査ではインフルエンザA型76%、B型24%となっています。またA型とB型の混合感染の方も2名ですが報告されています。

感染力は大変強く、集団生活の場では特に注意が必要です。学校などにおける集団発生が増加しています。予防には手洗い、うがい、咳エチケットが有効です。

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第6週			2			
	累計			2			
学年閉鎖	第6週		1	1		2	
	累計		1	1		2	
学級閉鎖	第6週			5			1
	累計		1	10			1

病原体検出情報ではInfluenza virus A H1pdm09 25例、Influenza virus B 8例が検出されています。

★咳エチケット

- ・咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ・使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ・咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

★インフルエンザにかかったと思ったら

比較的急速に38℃以上の発熱があり、せきやのどの痛み、全身の倦怠感を伴う場合はインフルエンザに感染している可能性があります。こういった症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第5週の0.03から第6週では0.10となっています。須崎では警報値を超え、高知県全域では注意報値を超えています。

患者の咳やくしゃみ、唾などのしぶきに含まれている百日咳菌を吸い込むことによって感染しますので、「咳エチケット」に心がけてください。

百日咳は世界的に見られる疾患で、いずれの年齢でもかかりますが、小児が中心となります。また、重症化しやすく、死亡者の大半を占めるのは1歳未満の乳児、ことに生後6カ月未満の乳児です。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第5週の3.50から第6週では2.63と減少していますが、中央東で増加し、中央西、幡多では注意報値を超えています。

高知県では過去2年間の同時期と比較して高い値が続いており、引き続き注意が必要です。

通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなります。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第5週の6.53から第6週では5.70とほぼ横ばいですが、高知市、安芸で増加しています。定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルスが7例、ロタウイルスが27例報告され、また基幹定点からの感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が16例報告されています。

ノロウイルスやロタウイルスによる感染性胃腸炎は、平均して1～2日の潜伏期を経て、嘔吐・嘔気・腹痛・下痢・発熱等の症状を引き起こします。ほとんどの方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄り等は重症化し、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡する事があります。

感染力は大変強く、学校や社会福祉施設など集団生活の場では特に注意してください。外出後には手洗いやうがいを、トイレの後、調理や食事の前には手洗いの励行をお願いします。消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを使用するか、85℃以上で1分以上の加熱が必要です。

●高知県ノロウイルス対策マニュアル

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

●厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

感染症予防の基本は、

★★★手洗いから★★★

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第6週は基幹定点から5例、定点医療機関からのホット情報で4例、感染症情報収集システムでは8例の報告がありました。

患者との濃厚な接触により感染が成立し、家庭内などでの感染がよく見られます。感染により抗体ができますが、生涯続くものではなく、再感染もよく見られます。感染を広げないためのポイントは、咳エチケットと手洗いです。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）
6週（2月8日～2月14日）



↑：急増

↗：増加

→：横ばい

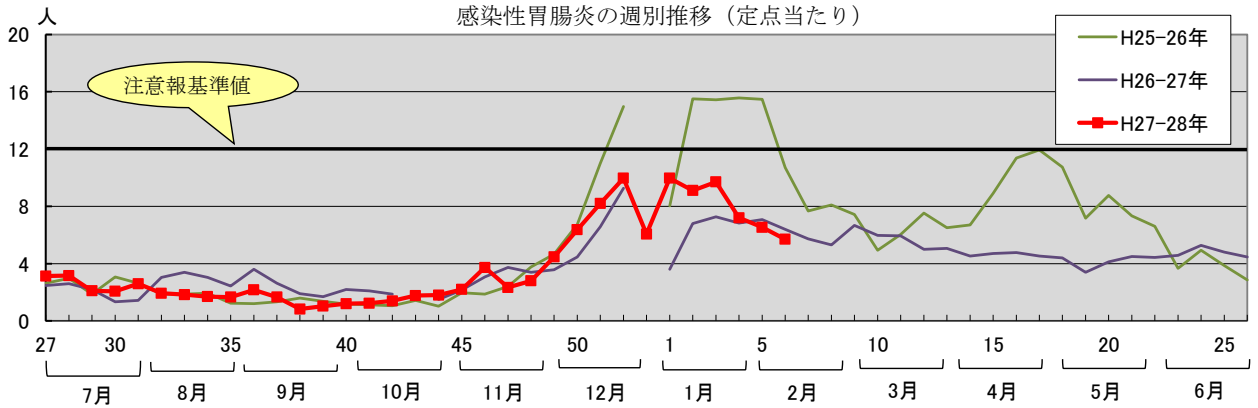
↘：減少

↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↗	23.92	安芸以外で増加し、須崎、高知市では警報値を超え、県全域及び中央西、中央東、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	5.70	高知市、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	2.63	中央東で増加し、中央西、幡多では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症	↗	1.93	中央東、高知市、中央西で増加しています。
流行性耳下腺炎	→	0.67	幡多で増加しています。

○感染性胃腸炎 第6週：5.70 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 5.70 (前週：6.53) とほぼ横ばいです。地域別にみると、高知市 7.45 (前週 7.00)、安芸 2.00 (前週 1.50) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、今週よりグラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	インフルエンザ	86	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	9	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	8	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	8	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	12	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	9	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	31	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	62	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	40	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	39	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	17	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	43	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	53	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	59	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	16	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	47	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	27	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	17	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	38	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	47	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	7	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	4	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	5	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	5	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	13	男	幡多	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	6	女	高知市	Influenza virus B/Victoria
6	インフルエンザ	14	男	高知市	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	8	女	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	8	男	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	5	男	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	5	女	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	4	女	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	インフルエンザ	6	男	須崎	Influenza virus B/Yamagata
6	不明熱	2	女	須崎	Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
5	伝染性紅斑	3	女	須崎	human parvovirus B19 virus
5	不明発疹症	2	男	須崎	Human herpes virus 6

★全数把握感染症

第6週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	10	90歳女	幡多
		1	11	90歳女	高知市
		1	12	80歳女	中央西

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報	
安芸	田野病院小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症3例(1歳女2人、3歳男)	
中央東	あけぼのクリニック	インフルエンザA型26例 B型8例	
		ロタウイルス胃腸炎4例(1歳2人、2歳、3歳)	
		RSウイルス感染症6例(1歳4人、2歳2人)	
	野市中央病院小児科	インフルエンザA型(+)8例 (ワクチン接種済み3例:8歳男、9歳男女 ワクチン未接種5例:7歳男、7歳女2人、9歳女、10歳男)	
		インフルエンザB型(+)1例(14歳女:ワクチン未)	
		インフルエンザA型&B型1例(9歳男:ワクチン未)	
	早明浦病院小児科	EBウイルス感染症1例(7歳女)	
		インフルエンザA型19例(1歳~16歳)	
		インフルエンザB型1例(1歳)	
	高知市	けら小児科・アレルギー科	百日咳(Pt-IgG105EU/ml以上)1例 (7歳女:DPT4回済み 典型的な咳あり)
マイコプラズマ肺炎3例(4歳女、9歳女、10歳男)			
ロタウイルス腸炎7例(1歳男、2歳男2人、3歳男、6歳男、7歳女、8歳男)			
アデノウイルス扁桃炎1例(2歳男)			
カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌O-1腸炎1例(20歳男)			
細木病院小児科			ロタ8例(7ヶ月女、9ヶ月女、1歳男女、2歳男、3歳男、4歳男、6歳女) ノロ1例(3歳女)
福井小児科・内科・循環器科		インフルエンザA型23例 インフルエンザB型5例 予防接種済10例	
		溶連菌感染症7例 流行性耳下腺炎3例	
高知医療センター小児科		ノロウイルス5例(6ヶ月女、10ヶ月女、1歳女2人、2歳女)	
		ロタウイルス5例(1歳男2人、3歳男、4歳女、8歳女)	
		病原性大腸菌4例(0ヶ月男女、1ヶ月女、2ヶ月男) RSウイルス感染症6例(2ヶ月男、5ヶ月女、9ヶ月男、1歳男2人、2歳男)	
中央西		石黒小児科	水痘1例(4歳男:水痘ワクチン1回済み)
		日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎4例(1歳男、3歳男女、5歳女)
須崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎9例 内5例ロタ(+)	
		百日咳2例(9歳女:PT抗体117X、14歳男:PT抗体160X)	
		マイコプラズマ肺炎1例(13歳男)	
	大西病院小児科	インフルエンザA型3例(4歳男、5歳女、7歳男) インフルエンザB型1例(8歳男)	
幡多	幡多けんみん病院小児科	ロタウイルス陽性3例 ノロウイルス陽性1例	
		こいけクリニック	インフルエンザA型(+)インフルエンザB型(+)同時1例(3歳男)
	さたけ小児科	帯状疱疹1例(3歳男)	
		インフルエンザA型19例 インフルエンザB型4例	

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

ジカウイルス感染症が、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第5項第11号の規定により政令で定められ、全数報告の対象となる四類感染症に追加されました。診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることが定められています。届出様式等について、厚生労働省ホームページに掲載されました。

●ジカウイルス感染症 定義（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

●ジカウイルス感染症 発生届様式（PDF）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

●ジカウイルス感染症について（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

※最新情報に関しては、FORTH/厚生労働省検疫所ホームページよりご確認ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/01190956.html>

★全国情報

第4週（1月25日～1月31日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核327例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症18例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎9例、回帰熱1例、つつが虫病3例、デング熱2例、レジオネラ症18例、

5類感染症：アメーバ赤痢23例、ウイルス性肝炎6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症19例、急性脳炎18例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例、後天性免疫不全症候群22例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症36例、水痘（入院例に限る）5例、梅毒53例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん3例

報告遅れ：E型肝炎4例、つつが虫病2例、デング熱1例、レジオネラ症4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例、急性脳炎14例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒29例、播種性クリプトコックス症1例

★注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

2015/2016年シーズン〔2015年第36週（2015年8月31日～9月6日）以降〕のインフルエンザの流行状況は、2015年第36週以降低水準で推移していたが、年末から定点医療機関当たりの報告数の継続的な増加が見られ、2016年第1週では定点当たり報告数は2.02となり、初めて全国的な流行開始の指標である1.00を上回った。2016年第4週（2016年1月25～31日：2016年2月3日現在）では定点当たり報告数は22.57と前週の約2倍に増加した。また、都道府県別の定点当たりの報告数でも、全都道府県で前週よりも増加した。その推移をみると、2015年第53週までは東日本の自治体から多くの報告がなされていたが、第4週の定点当たり報告数では全国から多くの報告がなされ、新潟県（39.44）、沖縄県（34.29）、福岡県（31.88）、神奈川県（31.64）、埼玉県（30.30）、千葉県（29.16）、愛知県（28.49）、北海道（27.15）、茨城県（26.73）、東京都（25.98）、岐阜県（24.32）、山口県（23.43）、長崎県（23.13）、山梨県（22.60）の順となった。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、2016年第4週は約107万人（95%信頼区間：98～116万人）となり、前週の推計値（約52万人）よりも増加した。性別では、男性が約55万人（51%）で、年齢別では、5～9歳が約27万人、10～14歳が約15万人、0～4歳が約14万人、30代、40代がそれぞれ約12万人、20代、50代がそれぞれ約7万人、15～19歳、60代がそれぞれ約5万人、70歳以上が約3万人となっており、15歳未満が約56万人（52%）であった。今シーズンのこれまでの累積の推計受診者数は約216万人となり、性別では、男性が52%、年齢別では、15歳未満が47%、30代～40代が25%、70歳以上が3%と推計され、15歳未満が多く70歳以上の高齢者が少ない特徴がみられた。

基幹定点からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）の状況については、2015年第36週以降20例未満で推移していたが、2015年第51週から増加し、2016年第4週は739例の報告であった。2016年第4週では、年齢別では、15歳未満が359例（49%）、70歳以上の高齢者が213例（29%）であった。今シーズンのこれまでの累積入院患者数は1,936例となり、15歳未満が835例（43%）、70歳以上の高齢者が627例（32%）となり、小児と高齢者が多い特徴がみられた。

インフルエンザウイルスの検出状況として、直近の5週間（2015年第53週～2016年第4週：2016年2月3日現在）ではAH1pdm09の検出割合が多く、次いでB型、AH3亜型の順であった。なお、AH1pdm09の検出割合が多い傾向は米国、欧州、西太平洋地域でも確認されており、今後の動向を注視する必要がある。

例年のインフルエンザ流行は、11月末から12月にかけて始まり、1月末から2月上旬にかけてピークとなることが多いが、2015/2016年シーズンは例年と比較すると、流行の開始時期が1カ月程度遅い。過去11シーズンで1月に入って流行入りの指標を超えたのは、今シーズン以外では2004/2005年シーズン、2006/2007年シーズンに観察されており、ピークが2月後半～3月にずれ込むなどの状況は観察されたが、ピーク時の定点当たり報告数についてはそれぞれ50.07（第9週）、32.95（第11週）であり、流行が低く推移したわけではなかった。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合、訪問を自粛してもらおう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第6週 平成28年2月8日(月)～平成28年2月14日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第6週					計	前週	全国(5週)	高知県(6週未累計)		全国(5週未累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/2/14	
インフルエンザ	インフルエンザ		21	215	524	113	132	143	1,148 (23.92)	789 (16.44)	171,570 (34.66)	2,342 (48.79)	366,266 (73.99)
小児科	咽頭結核熱				1			2	3 (0.10)	5 (0.17)	1,203 (0.38)	18 (0.60)	6,611 (2.09)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	8	34	13	1	21	79 (2.63)	105 (3.50)	11,459 (3.63)	447 (14.90)	45,937 (14.56)	
	感染性胃腸炎	4	41	82	15	9	20	171 (5.70)	196 (6.53)	23,850 (7.55)	1,446 (48.20)	122,806 (38.91)	
	水痘		1	2	2			5 (0.17)	7 (0.23)	1,249 (0.40)	54 (1.80)	8,239 (2.61)	
	手足口病				2			2 (0.07)	2 (0.07)	108 (0.03)	6 (0.20)	688 (0.22)	
	伝染性紅斑			4				4 (0.13)	9 (0.30)	1,848 (0.59)	40 (1.33)	11,857 (3.76)	
	突発性発疹		3	7	2	2		14 (0.47)	9 (0.30)	1,209 (0.38)	59 (1.97)	6,388 (2.02)	
	百日咳			1		2		3 (0.10)	1 (0.03)	38 (0.01)	8 (0.27)	209 (0.07)	
	ヘルパンギーナ							()	2 (0.07)	54 (0.02)	2 (0.07)	263 (0.08)	
	流行性耳下腺炎	1	1	11	4	1	2	20 (0.67)	18 (0.60)	2,365 (0.75)	120 (4.00)	13,759 (4.36)	
RSウイルス感染症	1	19	27	7	2	2	58 (1.93)	47 (1.57)	1,576 (0.50)	255 (8.50)	11,701 (3.71)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	7 (0.01)	()	37 (0.05)	
	流行性角結膜炎							()	1 (0.33)	490 (0.72)	2 (0.67)	2,631 (3.84)	
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	2 ()	()	37 (0.08)	
	無菌性髄膜炎							()	()	14 (0.03)	2 (0.25)	87 (0.18)	
	マイコプラズマ肺炎			3			2	5 (0.63)	6 (0.75)	263 (0.55)	36 (4.50)	1,578 (3.34)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			3				3 (0.38)	1 (0.13)	6 (0.01)	13 (1.63)	48 (0.10)	
	感染性胃腸炎			13			3	16 (2.00)	9 (1.13)	170 (0.36)	55 (6.88)	543 (1.15)	
計(小児科定点当たり人数)	29 (9.25)	288 (29.97)	712 (48.10)	158 (37.60)	149 (41.50)	195 (27.28)	1,531 (35.89)		217,481	4,905 (130.63)	599,685		
前週(小児科定点当たり人数)	40 (12.50)	290 (30.50)	579 (40.20)	113 (29.26)	86 (27.75)	99 (16.83)		1,198 (29.81)					

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第6週					計	前週	全国(5週)	高知県(6週未累計)		全国(5週未累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H28/1/4～H28/2/14	
インフルエンザ	インフルエンザ		5.25	19.55	32.75	22.60	33.00	17.88	23.92	16.44	34.66	48.79	73.99
小児科	咽頭結核熱				0.09			0.40	0.10	0.17	0.38	0.60	2.09
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.14	3.09	4.33	0.50	4.20	2.63	3.50	3.63	14.90	14.56	
	感染性胃腸炎	2.00	5.86	7.45	5.00	4.50	4.00	5.70	6.53	7.55	48.20	38.91	
	水痘		0.14	0.18	0.67			0.17	0.23	0.40	1.80	2.61	
	手足口病				0.67			0.07	0.07	0.03	0.20	0.22	
	伝染性紅斑			0.36				0.13	0.30	0.59	1.33	3.76	
	突発性発疹		0.43	0.64	0.67	1.00		0.47	0.30	0.38	1.97	2.02	
	百日咳			0.09		1.00		0.10	0.03	0.01	0.27	0.07	
	ヘルパンギーナ								0.07	0.02	0.07	0.08	
	流行性耳下腺炎	0.50	0.14	1.00	1.33	0.50	0.40	0.67	0.60	0.75	4.00	4.36	
RSウイルス感染症	0.50	2.71	2.45	2.33	1.00	0.40	1.93	1.57	0.50	8.50	3.71		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.05	
	流行性角結膜炎								0.33	0.72	0.67	3.84	
基幹	細菌性髄膜炎											0.08	
	無菌性髄膜炎									0.03	0.25	0.18	
	マイコプラズマ肺炎			0.60			2.00	0.63	0.75	0.55	4.50	3.34	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.60				0.38	0.13	0.01	1.63	0.10	
	感染性胃腸炎			2.60			3.00	2.00	1.13	0.36	6.88	1.15	
計(小児科定点当たり人数)	9.25	29.97	48.10	37.60	41.50	27.28	35.89			130.63			
前週(小児科定点当たり人数)	12.50	30.50	40.20	29.26	27.75	16.83		29.81					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869